

令和5年度 授業改善実践研究校報告書 落合中学校

1 学校の課題

平成31年（令和元年）度の全国学力・学習状況調査（以下、「本調査」という。）における本校の正答率は、全国平均との差が国語は約8ポイント、数学は約12ポイントであった。そこで広島市教育委員会の研究指定を受け、指導・助言をいただくとともに、授業改善に努めた結果、数値としては平成31年の本調査と比較して令和5年度は、国語で約2ポイント、数学で約6ポイント国との差を縮めることができた。

しかし、令和5年度の本調査において、「平日に家庭学習を全くしない。」と回答した生徒の割合は19.8%と全国平均よりも約14ポイント高くなっており、休日に関しては、「家庭学習を全くしない。」と回答した生徒の割合は32.3%と全国平均よりも約20ポイント高くなっている。このことについては、令和5年度における経済支援家庭の割合が44.8%と高い数値を示しており、経済的に苦境に立たされている家庭が多いことと密接な関係があると捉えている。また、本調査において毎日朝食を食べていますかという質問について、ほとんど食べない、食べないと回答した生徒の割合は16.7%であり、全国平均より約7ポイント高いことや、「家庭において自分で計画を立てて勉強をしていますか。」という質問に対しては、全くしていない、あまりしていないと回答した生徒の割合が63.6%であり全国平均より約19ポイント高いことなど、家庭が学習する場としての機能を充分持ち合わせていない実態が見られる。

2 研究主題

学びを継続できる生徒の育成
～インタラクティブな教育の充実を通して～

3 取組内容

- (1) 振り返りシートを活用する。
- (2) グループワークを積極的に導入し、グループ学習の環境整備の徹底に努める。
- (3) グループワークの際に教員はファシリテーターとして生徒と生徒を繋ぐ。
- (4) 小テストの予定表や、課題の期限が記入してあるホワイトボード作成することで、毎日の課題の認知をする。
- (5) 1週間に1度の自主学習ノートを提出する。
- (6) 年間12回の校内研修の実施
 - 4月（研究テーマの周知）
 - 7月（アンケート結果や日々の授業実践などからの成果と課題と期末に向けての取り組み）
 - 12月（1年間通しての振り返り）
 - 5月～1月（教科研究グループでの年間9回の授業研究）

～具体的な取り組み～

1 インタラクティブな学びの導入 (評価指標：生徒アンケート肯定率)

→グループ学習の積極的な導入

《期待される効果》

- ・ 単なる情報の伝達ではなく、より深い学びの実現が期待できる。

2 学びの可視化 (評価指標：生徒アンケート肯定率)

→振り返りシートの活用

→こまめな小テスト実施

《期待される効果》

- ・ 単元の統合と連続性が促進され、学習の断片化が軽減され学習の定着が期待できる。
- ・ 生徒は自分が理解している部分と理解していない部分が明確になり、学習戦略の改善を促進し、より効果的な学習の実現が期待できる。また、こまめな小テストの実施によって学習のPDCAサイクルを確立させ、学習の定着が期待できる。

単元計画をした上で授業が実施されている。1時間1時間の授業の目標は明確になっているので授業のめあては最初から記入されている。「まとめ」の欄にはめあてに対するの答えを書く。「振り返り」の欄には、まとめをする際に大切なポイントを具体的に書く。

日付 4/6	目標 単項式・多項式・式の次数の意味を理解することができる。	振り返り	
まとめ	$\textcircled{1} 3x^2 \textcircled{2} 5x^2 - 4y \textcircled{3} -8x^2 \textcircled{4} x^2 - 5 + 2$	単項式・多項式を分ける時、式の最初から「+」か「-」かを見て、かき分ける。と簡単にできる。	本時の授業の理解度 A 発表回数 0
日付 4/20	目標 同類項をまとめることができる。	振り返り	
まとめ	$(1) 3x - 6x + 4a + 2b = 7a - 4b$ $(2) 7x^2 + 5x - 2 - 6x^2 + x = x^2 + 6x - 2$	同類項をまとめる時、文字が同じものを数値を足し、減らしてまとめることができる。	本時の授業の理解度 A 発表回数 1
日付 4/21	目標 多項式の加法・減法ができる。	振り返り	
まとめ	$(1) (4a - 9b) + (3a + 5b) = 4a - 9b + 3a + 5b = 7a - 4b$ $(2) (5x^2 + 3x) - (6x - 4y) = 5x^2 + 3x - 6x + 4y = 5x^2 - 3x + 4y$	1年生になったからこの1行かたを、(+)(-)の符号だけ替える。前回は同類項のまとめで、(同じ文字をまとめる)を利用して、順番に計算する。解くことができました。	本時の授業の理解度 A 発表回数
日付 4/27	目標 多項式の乗法・除法ができる。	振り返り	
まとめ	$(1) (18a - 12b) \div (-3) = -6a + 4b$ $(2) 3(2x + 3y) + 2(x + 4y) = 6x + 9y + 2x + 8y = 8x + 17y$	加法、減法、乗法、除法が交じると、符号を忘れずに、同じ文字の同類項をまとめる。計算することによって、解くことができました。	本時の授業の理解度 A 発表回数 1

振り返りシート例

3 自己学習のサポート (評価指標：生徒アンケート肯定率)

→自主学习ノート、ミライシードの活用

《期待される効果》

- ・ 生徒が自分自身の学習を管理し、効率的な学習を行うことができ、学習の定着が期待できる。

4 検証結果

◎ 評価指標：実力テストの平均点 **50** 点、正答率 30%未満の生徒の割合 **30%**以下

【実力テスト平均点（3年生）】

	国語	社会	数学	理科	英語
第1回実力テスト	43.1	38.1	34.0	37.1	41.6
第2回実力テスト	39.1	36.1	39.9	49.7	42.7
第3回実力テスト	38.8	37.3	43.0	45.1	35.4

【実力テスト正答率 30%未満の割合（3年生）】

	国語	社会	数学	理科	英語
第1回実力テスト	23.5%	42.2%	46.1%	41.2%	34.3%
第2回実力テスト	31.3%	42.4%	41.4%	26.3%	44.0%
第3回実力テスト	34.3%	42.6%	39.2%	31.4%	48.0%

1 インタラクティブな学びの導入

アンケート結果（生徒アンケートの肯定評価の割合）

授業ではグループ学習がよくある。	90%
グループ学習をする際に、教科書などの物は机の端に置いている。	88%
グループ学習をすることによって分からないことが分かるようになったり、学習の理解が深まったりする。	88%

2 学びの可視化

アンケート結果（生徒アンケートの肯定的評価の割合）

振り返りシートを記入することで学習の定着につながっていると思う。	73%
振り返りシートを記入することで自分のできる所、できない所が分かる。	69%
小テストがいつ、何の教科が実施するのか把握している。	72%
勉強して小テストに臨むことができている。	67%

3 自己学習のサポート

アンケート結果（生徒アンケートの肯定的評価の割合）

家庭学習で自主学習ノートに取り組むことができている。	56%
自主学習ノートの取り組み方を理解している。	89%
自主学習ノートがあることで家庭学習に取り組む習慣がついた。	52%

5 研究成果

1 インタラクティブな学びの導入

インタラクティブな学びができるための環境整備を徹底した。グループ学習をすることによって学習の理解が深まったと感じている生徒が88%に達した。

しかし、テストの点には結びついていない。双方向のコミュニケーションを取ることが難しく、できる生徒が勉強が苦手な生徒に教える単方向のコミュニケーションがよく観られた。勉強が苦手な生徒のアウトプットの活動がなかったことがテストの点に結びつかなかった1つの要因であると分析している。



真ん中のスペースを空けることによって物理的な障害をなくし、グループ学習の活性化のための環境整備

2 学びの可視化

一部の生徒は振り返りシートの活用による効果に認識を持っているが、全体ではまだ完全には効果を認識できていない。生徒に対して振り返りシートの目的や利点をより明確に伝える必要がある。振り返りシートに記述された生徒の意見を積極的に授業に反映することが、シートの使いやすさや効果、生徒の授業の理解度の向上に影響すると考えられる。

小テストをいつ、どの教科で実施されているかを認知している割合が72%であるが、小テストの実施が実力テストの点数に結びついていない。予告期間や準備のための資料提供などを改善する必要があると考えている。単元計画の時点で小テストの実施タイミングを明確にし、新しい単元に入るときにはいつ、どの時点で小テストが実施されるのか生徒に分かるようにする必要がある。

学年	月	火	水	木	金
1年生					
2年生					
3年生					

学年ごとに小テストがいつどの教科で実施されるかホワイトボードへ集約した

3 自己学習のサポート

生徒が自主学習ノートの取り組み方を理解しているにもかかわらず、実際に取り組んでいる割合が低い。自主学習ノートが家庭学習の一環として定着するには、生徒がその重要性や有用性を十分に理解する必要がある。また、自主学習ノートの取り組み方を理解している生徒であっても、ノートの使い方が難しいと感じている場合がある。ノートの作成方法や、記述内容について生徒により詳細な指導やミライシードの活用をサポートが必要である。